

第16回 JCHO高岡ふしき病院地域協議会

日 時 令和5年2月16日(木) 15時30分～16時30分

場 所 JCHO 高岡ふしき病院2階会議室

各委員

医師会：一般社団法人 高岡市医師会監事

たみの医院 院長

民野 均

行 政：高岡市福祉保健部健康増進課長・保健センター所長

赤阪 典子

利用者：公益社団法人富山県アイバンク理事長

JCHO高岡ふしき病院支援の会 会長 大黒 幸雄

(以上、敬称略)

病 院：高岡ふしき病院 院長

高嶋 修太郎

同 副院長

宮崎 幹也

同 副院長

和田 攻

同 看護部長

諸江 由紀子

同 事務長

江川 登事務長進行

内 容

高嶋院長から、第16回地域協議会開催の挨拶があり、協議会の開催趣旨（独立行政法人地域医療機能推進機構協議会設置要綱第5条）により、高嶋院長が議長となり議事に入った。

1. 院長挨拶

本日は、ご多忙のご参集頂き誠にありがとうございます。この会議は独立行政法人地域医療推進機構法第20条にて定められた地域協議会です。医師会、医療行政、地域住民を代表する方々から広くご意見を伺い、地域のニーズに応えた病院運営に努めていきます。

2. 報告事項 JCHO高岡ふしき病院の現状と今後（院長）

現在は新型コロナウイルスも落ち着き、ワクチン接種件数も随分少なくなってきました。また、コロナ病床についても令和4年10月より協力医療機関から重点医療機関へ変更し、コロナ病床に係る病室も4室確保している状況となっております。発熱外来につきましても、これまでは午前のみしか行っておりませんでした。医師等の医療スタッフの体制を整え、本年1月より午後診療も行うようにしました。発熱患者が爆発的に増加した際には、受け入れきれず患者さんよりお叱りを受けたこともありましたが、スタッフの献身的な努力によっ

て乗り切ることが出来ました。

また、昨年8月と11月には度々わたる院内クラスターが発生しました。休日・時間外診療は苦渋の選択でお断りしましたが、一般診療は止めることなくクラスターの終息を図ることが出来ました。更に職員の家族内感染が広がり非常に大変な時期もありました。

もう1点、地域医療構想の課題がございます。現在、稼働病床120床（回復期60床、急性期60床）に対し、回復期72床（12床増）、急性期48床（12床減）の病床計画を策定しています。現在1病棟を休床扱いとして病院運営を行っております。当院の許可病床は199床ですが、これ以上病床数を減少させますと病院事業が立ち行かなくなってしまうと見込んでいます。今後の当院の方向性は、回復期医療を中心に行っていく予定としておりこのこと自体、現状と大きな変化はありません。加えて、これまで通り、健診機能や専門医療も引き続き継続して取り組んで参ります。

次に、JCHO 本部のインフラ長期計画についてご説明いたします。建物整備は40～50年をスパンとし、建設物は60年間維持するというのが本部方針（インフラ長期計画）となっております。当院は現在築およそ40年であり、この先20年間維持させていかなければなりません。このためには、大規模改修が必要であり2～3年以内に改修工事を着工したいと考えております。具体的なプランを策定し、実行に移すための検討を行うため、院内に『経営強化プロジェクト会議』を立ち上げ、昨年6月に第1回目を、その後9月、11月と継続的に検討を重ねているところです。

以上のとおり、当院ではこれまでと同じく回復期と在宅医療を中心に組み込んでいきたいと考えております。他の地域では、『病院連携法人』という法人格を立ち上げて、地域の医療連携の強化を図っているような自治体もあるようですが、当院も同じ様な流れとなる可能性もあります。

先程の大規模改修については地域のニーズと照らし合わせ、スタッフや医療機器の確保を吟味しながら、どこの箇所の改修が必要となるのかを検討していかなければなりません。

次に、令和2年4月に高岡ふしき地域包括ケア講座を開設しましたがコロナ禍によって本来の目的である医療・介護・福祉の連携のための活発な活動が出来ませんでした。それでも、昨年9月10日（土）に『地域包括ケア講座開設記念講演会』を行いまして、医療行政（高岡市高齢介護課）、地域包括支援センター、住民自治体、医療機関の4者で引き続き地域包括ケアシステムの積極的な運営を協力して取り組んでいくことを確かめ合ったところです。今年度は研修会等新たなイベントの企画を考えております。更に、令和5年より守山・二口・能町地区圏域を加えて、名称も新たに『高岡ふしき地域包括ケアネットワーク』とし

で活動の場を広げていくことにいたします。

次に医師確保についてお話いたします。これまで整形外科の外来診療は毎日行っておりましたが、来年4月より医師の異動により月曜日の午後診と木曜日の全日診療に縮小されました。大学の医局（診療科）によっては慢性的な医師不足が続いているため、医師確保に非常に難渋している状況にあります。

しかしながら、令和4年7月より富山大学より脳神経内科の専攻医が1年限定ではありますが3か月毎のローテーションにて当院に移籍出向にて勤務しております。おかげをもちまして病院も若返りが図れているような状況です。

当院は公的病院ですから、経営的な援助や補助を他から得ることができません。収支が悪いと自由に使えるお金が少なくなります。そのためにも健全な病院運営が必要となります。そのような中、国より従前医療機関に交付していたコロナ補助金の一部を防衛費に充てるために返還する旨の通知が発出されました。このようなことは、我々現場の医療従事者にとって、誠に遺憾なことであり非常に心苦しいことです。ベッド数を90前後で運用し何とか健全経営が行えるよう持ちこたえておりますが、先般パクスシステムを導入したため高額な経費を支出することになってしまいました。

以上、これまでの病院の動向についてご説明いたしました。今後も地域包括ケアシステムに要となるよう使命感を持って病院運営にあたって参ります。

3. 協議

① 行政から

(行政代表)

従前より、新型コロナワクチン接種事業にご協力賜り誠に有難うございます。ワクチンの予約状況をみておりますと、伏木地区は直ぐに一杯になってしまいます。このような状況をから伏木の地域住民の方々は、高岡ふしき病院を非常に頼りにしていることがよく分かりました。また、近隣には真生会伏木クリニックさんも開院されたと伺っております。病診連携を図って頂き、地域医療の更なる発展に努めて頂ければと思います。

また、今後の新型コロナワクチン接種について、小児は継続となりますが、成人がどうなるのかが気になるところです。新聞報道では秋と冬に再開するとの情報が出ていますが、正式な方針は本年3月上旬には示される予定となっておりますので、その節には改めてご協力の程、お願い申し上げます。

(院長)

病院設備の物理的な限界もありますので、接種希望者の全員を受け入れるにはキャパシティ的にも難しいことです。しかしながら、市民集団接種にて医師派遣等で引き続き協力して参ります。

(看護部長)

院内において接種のための広いスペースを物理的に確保できないため、人数には限界があります。このことで地域住民の皆様にご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳なく思っております。

(行政代表)

本年5月からは5類に引き下がりますが、ワクチン接種は残っていくものと思われま

② 医師会から

(医師会代表)

医師も高齢化が進んでおり、開業医も減少しております。このような医療背景ですから、高岡市急患医療センターも非常に大変な状況となっております。クリニックはワクチン接種でパニックとなり、その間にも発熱患者がひっきりなしに来院してきます。このように、ワクチン接種と診療を同時に行っているような状況となっております。更に難しいのは、陽性患者の1年後の取り扱いが非常に難しいと思われま

す。入院患者はまだ良いとしても、外来患者は大変かと思われま

す。また、コロナの後遺症なのか、咳が長引く患者や罹患期間が長期に渡る患者が多いような気が致します。いずれにしても、国の方針が整うまでが大変です。PCR検査の結果が出るまでに時間がかかるため、それまではなるべく中に入れないようにしなければなりません。その他では、細菌性腸炎の患者さんの対処も非常に大変です。発熱患者の枠が定められている病院もあるため、そこに溢れた患者さんが当院へ流れ込んでくるケースもあるため、このあたりもシステムチックにやって頂きたいです。

(院長)

当院はPCR検査の結果が出るのが比較的早いのですがその噂を聞きつけて、地域以外からの患者が流れ込んでくるケースがあります。この予約枠を超えた患者さんが民野先生の所に流れたのかもしれない。

③ 地域・患者の立場から

(利用者代表)

高岡ふしき病院にも最近、若い医師が見受けられるようになった気がします。若い方が増えると病院全体も活気ついてきますので、患者としても大変に気分がよくなります。先程の高嶋院長の話にもありましたが、医師の確保は大変かとは存じますが、特に若い医師の確保に努めて頂きたいです。

④ 管理者から

(和田副院長)

某研究発表会において、当院において亜急性期の状態で治療を施し、市民病院へ転院させるといった病病連携に係る発表に高い評価を頂きました。地域医療においては、「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築が必要でありまして、そのためには受け皿となる地域の病床や在宅医療・介護の充実とそれぞれの病院が機能性をもって助け合っていかなければなりません。

(看護部長)

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から引き続きの面会制限でご不便をおかけして申し訳ありません。病院としては、たとえ5類になっても慎重に対処しなければなりません。このことで、ご不便やご迷惑をおかけすることが地域の皆さまにご迷惑をおかけしないようにしていきます。

(事務長)

本日、高岡市内公的4病院事務局勉強会を行いました。その中で、3月13日(月)よりマスク着用が個人の判断に委ねられたことにより、病院の対応は如何様にするべきかが論点に上がり、結果的に公的4病院は横並びで始めようということになりました。これにあたり、厚生センターや医師会におかれましては、適切な指導をお願いしたい。

4 その他

次回の開催予定日時の確認

日時：第17回 令和5年7月13日(木) 15:30～16:30

日程：第18回 令和6年2月15日(木) 15:30～16:30

場所：JCHO高岡ふしき病院 応接室

5 閉会挨拶

(宮崎副院長)

本日は、御多忙の所ありがとうございました。

地域連携のネットワークを強め、伏木地区の要の病院として地域住民からも期待されるような病院として今後も頑張っていきます。そのためには、患者さんと密接な連携を図り、効率よく進めていくためにIT技術を取り込んだりしながら地域住民の皆様と共に地域医療連携を形成していくことが重要なのではないのでしょうか。本日はありがとうございました。